

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	赤澤 和之
論文担当者	主査 垣淵 正男
	副査 越久 仁敬
	副査 芳川 浩男
学位論文名	Bone-conducted Vestibular-evoked Myogenic Potentials Before and After Stapes Surgery (アブミ骨手術前後の骨導前庭誘発筋電位検査)
論文審査の結果の要旨	
<p><b>【研究目的】</b> 前庭誘発筋電位 (vestibular evoked myogenic potential; VEMP) を用いてアブミ骨手術後の球形嚢と卵形嚢の障害の有無を確認すること。</p> <p><b>【対象と方法】</b> 対象は2014年8月から2016年7月の間に兵庫医科大学病院でアブミ骨手術を行い、術前の骨導 VEMP 検査が正常であった17例20耳とした。正常コントロール群としてめまいと難聴の既往の無い20例を前庭誘発頸筋電位 (cVEMP) の、24例を前庭誘発眼筋電位 (oVEMP) の対象とした。</p> <p>方法は術前後に骨導刺激による cVEMP および oVEMP を施行した。cVEMP では得られた球形嚢由来の固有の振幅を背景筋電図値で除した補正振幅を、oVEMP では卵形嚢由来の固有の振幅を用いて手術耳と対側耳の振幅の左右差を比べた。比較方法として振幅左右比の計算を用いた。</p> <p><b>【結果】</b> cVEMP では19耳(95%)、oVEMP では18耳(90%)で正常域であった。cVEMP で1耳に、oVEMP で2耳に、手術耳の振幅亢進によって対側耳との左右差を術後3ヶ月以内で認めた。術後半年での再検時には正常域となっていた。手術耳の振幅低下を認めた耳はなかった。</p> <p><b>【結論】</b> 骨導 VEMP を用いての検討ではアブミ骨手術後に卵形嚢および球形嚢の障害を認めなかった。</p> <p>申請者が本研究によって示した内容は、中耳手術に深く関わる鼓索神経の機能に関する重要な知見であり、学位授与に値すると評価した。</p>	